



赤羽別院報 第13号

発行所：真宗大谷派 赤羽別院 親宣寺  
発行人：野々山 洪美  
愛知県権豆郡一色町 赤羽上郷中14  
Tel.Fax.(0563)72-2308  
印刷：(株)エムアイシーグループ

### 特別座談

## 赤羽別院再生に向けて

司会 赤羽別院の現状をどのように見ておられるのですか。

浅野 赤羽別院という存在が、門徒の中で、あまりにも認識されていない現状があります。これを如何に打開していくかという問題があるわけです。あわせて、崇敬区域というのが、崇敬とは何ぞやとよく聞かれるんです。わたしは、この地域の九十五ヶ寺の寺と門徒が一緒にって別院をお取り持ちしていくことだと答えているんです。

高須 私は十年ほど前の再建のとき、別院の責任役員をしております。



説明のため各組、各寺を訪れたのですが、ある組長さんにおいては、門前払いで会っても下さりなかつた。これには驚きました。私は個人ではなく、別院の責任役員としてお



伺いしているのです。同じ教団、同じ崇敬区域の互いに責任ある立場のもの同士であり、一般社会ではありえないことが、この教団では起こることだと思ひ知らされました。それに給与費等においては、考えられないくらい微々たるもので凌いでみえる。門徒の方も、腰が引けてしまっている。仕方なくやっつけてという感じすらあります。かつては儀式を含めて一つひとつを突

に丁寧にやっていました。今は手を抜くことばかりを考えています。形が崩れると、中味も崩れるのです。赤羽別院もそんな大きな渦の中にあるんじゃないかと思っています。

藤谷 私は別院の大きな法要のときは、門徒七、八人を伴って、お参りするようになっていますが、近年、本堂にお参りが減ってきています。今後の対応がますます重要だと感じています。

司会 藤谷さんはこの度の再生委員会の答申を取りまとめられたのですが、その答申の一番の願ひは何ですか。

藤谷 本来の別院のあり方に戻すということ。それは換言すれば、門徒が集まれる別院にしたいということ。一方では門徒の腰が引け、仕方なくという側面もあるようです。

高須 「別院を大切に思う住職さんがたくさんいてほしい」

浅野 「寺族、門徒に親しみのある、気楽に利用できる別院に」

藤谷 「熱い思いを少しでも拾い上げ、生かしていくシステムを」

藤谷 だからこそ少しでも別院に足が向くようにみんなで努力していくことが大切ですね。まだ赤羽別院への思いは、根強くありますから。ただ現状は、別院によって人が集

まるのではなく、人によって集まる傾向が強くなっているようです。高須 同行の組織、地域における同行の崩壊が拍車をかけていますね。かつての農村共同体社会の崩壊が大きいと思います。昔からの地域、寺でやってきたことができない世の中になっていいます。

浅野 お二人の思いの中には昔の別院があるようすが、新たな別院の意味づけとして、地域教化センターにもつて行きたいという願ひがあります。そのためにはいろいろな面で改革をしていかなければいけません。まずは組織的な整備を手がけていきたい。手当てもある程度のことをしていかなければ無理が生じます。常駐者を置くことや、列座の増員充実なども真っ先に取り組んでいく内容だと思ふ。セン



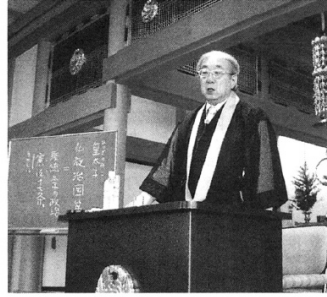
ターを機能させるためには専任の主幹をおいて、充実を図り、企画から運営にいたるまで多くの人に参加してもらい必要があると思います。

# 公開講演会

袁輪 秀邦師

日本人の優しさの原点を考える  
～聖徳太子を通して～

岡崎教区が赤羽別院で5月19日に開催した公開講演会のほんの一部ですが御法話を抜粋し、ここに記事として掲載させていただきます。



京都府下丹後半島先端の間人(たいざ)の海岸に建つ聖徳太子母子像をじっと見つめていると、お母さんと聖徳太子の悲しみが伝わってくるようです。な

ぜ人間は争ったり殺しあったりしなればならないのか。その争いの中で、太子はお父さんを失い、お母さんとも離ればなれにならなければならなかったわけです。このように両親を失うという体験は親鸞聖人にも共通していますね。親鸞聖人が聖徳太子の教えに深く共鳴された根っこには、そういう悲しみの共有があつたのではないかと思うのです。

親鸞聖人は、「信心は如来の本願力回向」であるとおっしゃり、「如来から賜わりたる信心」ということを浄土真宗における信仰の要(かなめ)とされました。信心というものは私の心が起すものではない、阿弥陀如来から賜わるものだ。その阿弥陀如来から賜わった心をいただいて、念仏申す身になることが人間の根本の救いなのだというのが真宗の教えです。

これを解らないと言う人がいるが、人間として生きることの深い悲しみを共有すると、私た

ちは仏さまを拜むようになる。その「拜む」ということ、すなわち礼拝するということから真の宗教心が開発されてくるのだということを示すのが浄土真宗の教えです。

礼拝というのは、人間が人間を超えたものに深く頭を下げる姿勢です。そういう姿勢がないと人間は傲慢になる。礼拝は一種の自己放棄です。金持ちになりますように、幸せになりますように、長生きしますようにということじゃない。それは祈りでなく、おのれの欲を満足させようとする自己主張です。

本当の祈りというのは、「このような悲しみをもって生きねばならない人間を助けて下さい」と、仏さまに頭を下げることで、聖徳太子にはそういう祈りがあつた。欲と欲が突つ張つて、互いに相手を抹殺し尽くすまで戦わなければならぬ人間の世界を、「どうか仏さま、そういう争いのない国にするにはどうしたらいいか教えて下さい」と

いう、そういう祈りがあつた。「他人への配慮」というのは実は祈りなんですよ。「自分を助けて下さい」じゃない。「他と共に人間が本当に人間として成就していく、そういう道を教えてください」という祈りです。私だけ幸せにして下さいと最初は祈るかも知れないけど、私が幸せになる為には周りの人みんなが幸せにならないといけませんから、祈りは最終的には、人間成就への祈りとなるのです。それが悲しみを超えて生まれる本当の優しさではないかと思うのです。

《趣旨抜粋》

## 赤羽別院報恩講案内

十一月十四日午後一時半

法話 野々山洪美師

十一月十五日午前十時・午後

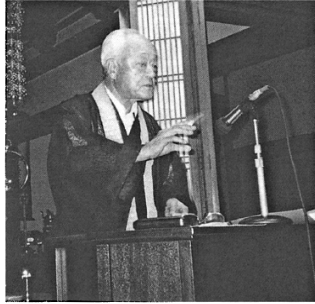
法話 桜部 建師

十一月十六日午前・午後

法話 和田法雄師

第八組のページ

青壮年の集い・同朋教室



■開催の趣旨

現在、第八組（西尾市、三和・室場地区）において様々な行事があり、ここでは青壮年の集いと同朋教室について紹介したい。

同朋教室は昭和五十一年、當時は昭和生まれの女性を対象に「真宗についての初歩的なお話」を聞き、「仏様についての作法とお勤めのけいこ」を通して家庭の中心である主婦の方々に、明るく心の灯をともし、和やかに

な家庭生活が営まれるよう念願してはじめられた。

青壮年の集いについては、平成五年に行われた「推進員養成講座」の流れを受け、翌六年より男性を対象として開かれている。

■いよいよ開講されて

両講座とも講師に戸松政憲師（岡崎市・福万寺前住職）を迎え、年四、五回組内各寺院を会場とし、同朋教室は午前九時半より、青壮年の集いは午後七時半より開講、正信偈が唱和される。

お勤め後、テキスト『仏教入門講座Ⅰ・八正道シリーズ』（仲野良俊著）をたよりとして

はテキストの『正見』の宿業因縁についてふれ、戸松師は「業」というものがわからないから、邪見を起こす。邪見を起こすものだから、いろんなことに悩んだり苦しんでいかならんわけです。しかし、これは結果的に当然のこととしておこっているのに、忌み嫌っているから、人

間は間違っていることに気づかない。苦しんでいかならんのですね。それをなんとか判つてもらいたいという事で宿業因縁を説いている訳です。自分できちんならんならんことをやってきたものだから、こうなつとる。だから、どうなつてしようとしてそれを認めて耐えていくよりしようがない。夫婦でも一緒。（笑）もうちょつといい人と一緒になりたかつたと思つても、こうならんならんようにやつてきたものだから、こうなつた」と笑いを交えながらのお話であった。

■二門徒の声

今年から参加したある男性は、「今までお坊さんの話はあまり聞いたことがなかったが、今日、お寺に足を運んで良かった。何か難しいだけの話を言うんじやないかと思つていたけど、楽しくわかりやすく聞けた。それに仏教は我々の日常のくらしに密着していると感じた」と言つていた。

（文責 伊奈 恵祐）

第八組行事紹介

●青壮年の集い（第四回）

十月七日 福正寺

●同朋教室（第五回）

十一月六日 随縁寺

●同朋の集い

十月十三日 午前 福浄寺

午後 順成寺

講師 小谷香示師（明栄寺住職）

第八組の寺院紹介

西尾市高落町

東浅井町

西浅井町

小島町

江原町

和気町

高河原町

花蔵寺町

善明町

室町

家武町

家武町

駒場町

貝吹町

上羽角町

順寛寺

正光寺

宿縁寺

安楽寺

福浄寺

来空寺

慶恩寺

慶昌寺

善徳寺

順成寺

円満寺

浄顕寺

随縁寺

福正寺

専念寺

第九組のページ

門徒研修旅行記

自分自身を見つめる旅

平成十八年五月二十五日(木) 朝七時、心配した雨にも降られず、第五回九組門徒研修旅行の七十九名を乗せた二台のバスは、吉良町の小牧グラウンドを元気に出発しました。

吉良町と幡豆町の東本願寺同行(門徒)の二日間の研修旅行です。行き先は、四天王寺、大阪城、難波別院、有馬温泉、叡福寺、法隆寺、教行寺。

岡崎インターへ向かうバスの中で、組長さんの挨拶がありました。「今回の旅行は、みんなが友好結束を深め、ひとりひとりが自分自身を見つめる旅にしましょう」との願いが語られました。

四天王寺、叡福寺、法隆寺は、聖徳太子ゆかりのお寺。聖徳太子は、我が国に初めて仏法を根付かせて下さったお方です。

叡福寺は、聖徳太子の磯長御

廟(墓所)で、親鸞聖人も十九の時、ここに参詣して仏道を歩む決意を新たにされたと伝えられています。

大阪城、教行寺は、蓮如上人ゆかりの地。蓮如上人は、明応五年(一四九四年)現在の大阪城の位置にお寺が建てられました。石山本願寺です。

石山本願寺は、織田信長との戦いで焼失しますが、そこに、豊臣秀吉が築いた城が大阪城です。城内には、蓮如上人の筆による南無阿弥陀仏の御名号の石



碑が建ち、みんなで記念写真(上)を撮りました。

難波別院は、東本願寺の別院。南御堂とも呼ばれています。名古屋の同朋大学で学んだという職員さんが案内して下さいました。「学生時代、一色町の松木島の海に遊びに行きました」と聞いてとても親しみを覚えられました。

難波別院の門前は、イチチョウ並木で知られる御堂筋。難波別院(南御堂)と西本願寺の津村別院(北御堂)の二つの御堂を結ぶ道筋ということで御堂筋の名がついたと聞きました。

大都会の大阪のメインストリート御堂筋に、二つの御堂が建ち、今も大勢の皆さんの心の拠り所になっていると感じました。今回の旅行で、果たして自分自身を見つめることが出来たかどうか、心もとないですが、仏法が私にまで届いて下さったのは、聖徳太子、親鸞聖人、蓮如上人、ありとあらゆる先人のお蔭様と感じる旅でありました。

大都会の大阪のメインストリート御堂筋に、二つの御堂が建ち、今も大勢の皆さんの心の拠り所になっていると感じました。今回の旅行で、果たして自分自身を見つめることが出来たかどうか、心もとないですが、仏法が私にまで届いて下さったのは、聖徳太子、親鸞聖人、蓮如上人、ありとあらゆる先人のお蔭様と感じる旅でありました。

御堂筋のイチチョウ並木が難波別院にお参りする人々を見守っていてくれるように、地元の赤羽別院の大イチチョウも私たちの参詣を待っていてくれます。赤羽別院での聴聞を通して、自分自身を見つめ続けていきたいと改めて思う旅でした。

(文責 大溪 昌寛 大溪 正明)

第九組の寺院紹介

- 吉良町 駿馬 良興寺
- 寺嶋 精立寺
- 木田 正向寺
- 上横須賀 源徳寺
- 富田 願専寺
- 吉田 正覚寺
- 富好新田 富好教会
- 小山田 妙隆寺
- 乙川 了淳寺
- 幡豆町 西幡豆 祐正寺
- 東幡豆 福泉寺
- 鳥羽 通因寺

第十組のページ

本山瓦ものがたり

— 明治時代の偉業 —

(3) 志貴野製瓦場の開場(その三)

二〇一一年、宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要を迎えるにあたり、御影堂の御修復事業が着々と進められ、御影堂素屋根の中では常に五十人前後の職人らの手により、小屋組みの補強と修繕、瓦の野地となる土居葺板の搬入、焼き直された瓦のほか、新たに焼き上げられた瓦が奈良県、岐阜県、愛知県から次々と納入され、いよいよ年末には瓦が葺きはじめられる。

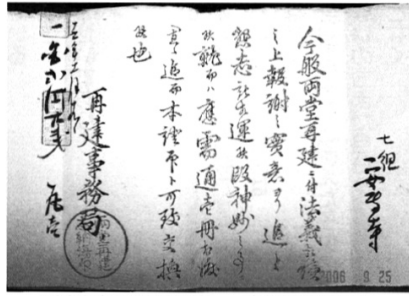
一方、御影堂の屋根から下ろされた瓦は、調湿剤として大寝殿の床下へ敷き詰められ、再利用されている。

かつて志貴野で製作された瓦が、形を変えて今後も本山を支えていくのである。

■再建事務局の披露状

この度、碧南市榎尾の安専寺

さんに当時の再建事務局から発行された披露状が大切に保管されていることを知り、見せていただいた。



再建事務局発行 披露状 碧南市 安専寺 蔵

■披露状書下し文

七組安専寺

今般、両堂再建に付き、法義相続の上、報謝の実意(トついで)より追々(おおいおい)懇志を相運び候段、神妙のことに候。就いては、応需(おうとゆ)の通り一冊を渡し置き候。追って本証印(しるし)と致すべく交換候なり。

再建事務局 志納場印  
十六年十一月十九日  
一、金貳円廿銭印 瓦巻  
とある。

■原文の意識

現在では、組の構成が当時とは異なり、「七組安専寺」は、今の「十四組安専寺」である。「この度の両堂再建にあたって、本願念仏のみ教えを後世に伝えることに励み、み仏を尊ぶお心からご懇志をよせていただきますことは、まことに尊いこととあります。お申し出の通り披露状一冊をお渡しして、懇志金をいただきました証拠の印と致します。再建事務局」と誠に丁寧なお扱いであった。以上が凡その文意である。

因みに、朝日新聞社発行の『明治・大正・昭和・値段史年表』によると、明治十五年の白米十キログラムあたりの小売価格は八二銭であった。  
又、当時の日雇労働者の一人一日当たりの年間平均賃金は、十九銭であり、大工の手間賃に

ついでには五十銭であった。

「二円二十銭」という尊い懇志金を受けて、上質な和紙に行書体の体裁で書かれた披露状は木版刷りとなっている。披露状は、こよりを使用して、たとえ紙に閉じ込み、割印がなされていることから、きめ細かいところまで心配りが感じられる。

(文責 三村 謙作)

第十組行事紹介

●本山報恩講団体参拝

十一月二十日(二十一日)

長浜別院、五村別院ほか

第十組の寺院紹介

西尾市熊味町

- 熊味町 願正寺
- 八ツ面町 法円寺
- 志籠谷町 瑞玄寺
- 中原町 蓮正寺
- 戸ヶ崎町 栄光寺
- 新渡場町 妙尊寺
- 寄住町 香嚴寺
- 丁田町 永寛寺
- 今川町 玄照寺
- 矢曾根町 厳西寺
- 明泉寺

第十一組のページ

裸の王様

浄林寺住職 新田智則

日々の糧を得るため仕事に追われている自分  
多くの人達との関係の中での自分は  
今どんなふうになっているのか？

いつしか「裸の王様」になってはいないだろうか？

自分のすることはすべてが正しく

他人のすることはすべてが間違っている

他人の話を自分の都合よく聞き分けて

何か失敗すればそれはすべて他人のせいであり

決して自分のせいではない

そう自分に言い聞かせてはいないか？

これでは「裸の王様」とかわらない

欲という名の仕立屋に「これは馬鹿には見えない服です」と

自分を誰よりも偉く見せたいばかりに身につけたのは

ありもしない見栄や虚勢ばかりではないか

お念仏の一声は「あの王様は裸で歩いている」と教えた子供の声

その声に気がつくことが中々出来ないのもまた自分

そんな愚かな自分でも見捨てることなく

お念仏という声をかけ続けて下さっているのは

阿弥陀如来に他ならぬ

お念仏の一声は自分自身を見つめなおす御縁の声である

第十一組の寺院紹介

西尾市 須田町	浄賢寺
順海町	唯法寺
中町	善福寺
中町	聖運寺
末広町	西尾教会
上町	正念寺
上町	浄林寺
山下町	常照寺
田貫町	唯信寺
平坂町	無量寿寺
西小柳町	恵琳寺
楠村町	本澄寺
羽塚町	恵教寺
国森町	阿弥陀寺
上矢田町	浄徳寺

別院のページ

■人事異動

赤羽別院では、去る八月より、副輪番制を廃止しました。変わって、永谷在(十二組光明寺住職)が書記兼務在勤として、別院に常駐(平日の午後)いたします。いつでもお越しください。

■印刷機の利用

別院に新たに印刷機が設置されました。コピー機と違って、枚数が多ければ多いほど安価に

印刷が出来ます。是非ご利用ください。

Q、帰敬式の帰敬ってどういふこと？

A、一般の生活をしている人が、法名を授かり、自分を中心とした生活から目覚め、仏教を依りどころとする生活することです。

もともと、此岸(今、生活している場所)から彼岸(浄土の世界)へ渡りたいと願うことから始まり、三宝を敬う証として法名をいただきます。三宝とは、仏・法・僧です。よき師・よき教え・よき友と訳されることもあります。

これらとの関わりの中で、自分自身が照らしたされるのが帰敬といえるのではないのでしょうか。



第十二組のページ

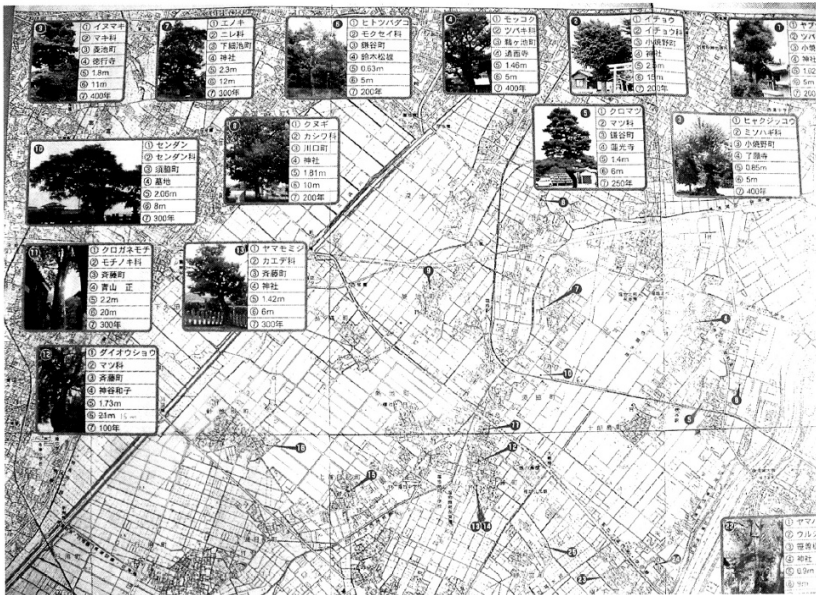
福地郷土マップ作りを

ご縁として

十二組の寺院十二ヶ寺と十二組門徒会と福地地区仏教会の三団体共同で福地郷土マップが制作され、福地南部・北部小学校百周年記念もあり、地域の小中学校に寄贈しました。

現在、寺と地域との関わりが薄くなっていく傾向が強くなっている中、その二つの関係を結びつきかけようとしています。車社会になり駐車場の不足ということもあって、寺に集まってもらうことが難しくなってきたいます。そんなこともあり、

寺だけを会場とするのではなく、地域の公民館でも福地郷土マップの制作打ち合わせを行っています。



福地郷土マップ作りは、社会活動の中に関わりを持つことの実践と考えています。今回、福地の名木マップとして制作するなかで、セングダンの多くは墓地に植えられ、キョウバの葉にはお経を書いていた。そしてその昔、お釈迦さまが、サラソウジュの大きな葉のお陰で、雨をしのがれたことなど、

仏教に関わりのある樹木もあることが分かりました。そんなことを手がかりとして、地域との関わりから仏教に立ち帰っていく事ができると思われます。

(文責 小栗 貫次)

第十二組の寺院紹介

- |         |     |
|---------|-----|
| 西尾市小猿野町 | 了願寺 |
| 鶴ヶ池町    | 通西寺 |
| 鎌谷町     | 蓮光寺 |
| 細池町     | 浄徳寺 |
| 菱池町     | 徳行寺 |
| 熱池町     | 篤信寺 |
| 横手町     | 玉照寺 |
| 平口町     | 浄念寺 |
| 市子町     | 願海寺 |
| 行用町     | 本誓寺 |
| 針曾根町    | 光明寺 |
| 寺津町     | 照円寺 |

第十三組のページ

門徒会座談レポート④  
お寺に親しく足を運べるようになるには

- A お寺というのはお参りするところという重い感覚があった、そういう垣根を取っ払うにはどうしたらいいだろうかと思うよね。
- B お参りをするとところといわれたけど、そのきっかけも誰かが亡くなってからの話になってしまいますね。
- C 報恩講などで子ども達を集めて、お参りの練習をしておるお寺さんてやあ、今の位あるだかねえ。
- D うーんそうだよね、お袋が亡くなった時、助音がなかったもんで、おつとめを知らなくて特別にお寺に行って教えてもらったんだよ。
- E 今もね、やっておるところ

- は、毎年年中行事のようにやっていますよ。
- C おらがとこのもやろうとして、子ども達に呼びかけて始めようとしたけども、誰も来なかったもんでどうしようもなくなっちゃたけどね。
- E 長年続けておると子ども達の親もお寺に行くもんだという風に思えるお寺もありますよ。
- B そういう風になると良いねお寺もつながりができるから。
- F 私の所では夏休みに子ども達を集めて行事をやるんだけどね、ただそれが単発的に終わってしまいうからそれだけが お寺との接点になってしまっている。
- A 年中を通してお寺と接点をもてるような行事があると良いんですけどね、そうすればお寺が中心になると思うんだけど。
- D 今お寺に行っても行事とか無ければ何もやることがないから、じゃあ帰ろうかねとな

- ってしまいうからね。
- C 大人になってからでも比較的行きやすいようにするには、やっぱり子どもの時にお寺に来ないといかんね。
- D 家は月参りをやっておつてね、そうすると毎月お寺さんと会う機会があつて気楽にしゃべれるようになりましたけどね。
- A そうだね、やっぱり顔を会わせる機会がないとね。
- C 家もおじいさんはよく一人で お参りをしておつたけども、私は忙しいだか気がないだか、あんまりできないからお寺さんが来てくれると一緒に参りできていいですよ。



レポーターの感想

門徒会改選に伴い、新しい役員の人たちが全く座談会に参加したことの無い人たちがほとんどだったので、座談会じたいで、蓋を開けてみれば皆さん自分の意見などを言ってもらえたのでよかつたと思います。次回からはより一層話し合いを深めていければと思いました。

(文責 伴 仁志)

第十三組の寺院紹介

- 一色町味浜 養林寺
- 一色 安休寺
- 池田 隆勝寺
- 池田 慶徳寺
- 対米 長寿寺
- 大塚 明栄寺
- 大塚 本法寺
- 中外沢 阿弥陀寺
- 開正 本浄寺
- 治明 栄運寺
- 松木島 教栄寺
- 酒手島 良宣寺
- 前野 信証寺



第十四組のページ

シリーズ 親友 ④  
心の元氣塾で出遇った仲間たち

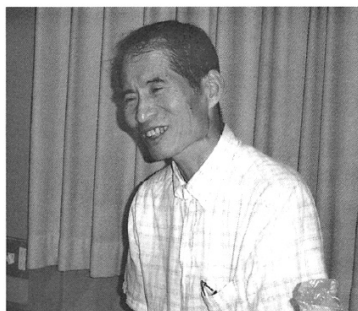
中根 壯治さん 最近まで葬儀社に勤務。第一回元氣塾より参加。法名 釋信樂(しんぎょう)

―心の元氣塾にご縁があったきつかけを聞かせてください。

お寺さんにご縁があったのは、三十年以上昔かなあ、おつとめの本があるじゃない、正信偈の本。それを一緒に職場で、間野さん(後に光正寺住職)という方が「中根君、見てみる」って言って貸してくれたんですよ。

その時に関心を持ってね、正信偈を、結構、何回か見たんです。間野さんが言うには、中根くんの本を貸してあげたら、擦り切れるぐらいにして読んで、なかなか熱心だなあと思ってたというんですよ。そして、十年ほど前にこの

元氣塾の紹介を受けたんです。



―仏教には若いときから、興味をもっていたのですか。

とにかく本が好きで、文芸小説からサスペンスからいろいろ読んだけど、仏教は、わりと若い頃から私の波長にピターンと合う感じがしましたね。

その仏教の中で、空海もあれば最澄もある、いろいろある中で、そこでまたコチーンと引っかかったのが親鸞なんです。

―親鸞さんのどついうところに着かれたのですか？

何かねえ、さわやかで、涼しげな感じがして、自分の考え方とか生き方に合ってるように思えたんです。で、何ていうのか、真実とは何かとか、そういうものを考えていて、一番親鸞の考え方の中に、何か自分の求めるものがあるような気がしたというか。

親鸞の教えのすごいところは、頭で考えたことと体験したことが一つになっているというのがすごいと思いますね。つまり学者さんは、頭で考えて体験をしない、親鸞は農耕をしながら、自分も食うや食わずの生活をして、その体験がベースになっている。

―流されたのも関東へ行かれたのも、親鸞さんにとつては全部大事なことだったんですね。そうそう。なにがすごいという、信のみという、南無阿弥陀仏のみという一点。一文不知の農民になんば説いたつてすぐ忘れちゃう。ただ南無阿弥陀仏を称えたら浄土に往生するとい

う教えは、頭で考えたことと体験したことが一つになっている。すごい教えだと思えますね。

(二〇〇六・九・十五)  
聞き取り 喜助田信子  
編 集 安藤 智彦

第十四組の寺院紹介

- |       |     |
|-------|-----|
| 晋南市大浜 | 西方寺 |
| 大浜    | 本伝寺 |
| 棚尾    | 安専寺 |
| 棚尾    | 光輪寺 |
| 棚尾    | 報恩寺 |
| 中山    | 光正寺 |
| 前浜    | 平等寺 |
| 東浦    | 東正寺 |
| 伏見屋   | 常瑞寺 |
| 神有    | 照光寺 |
| 神有    | 応春寺 |
| 鷲塚    | 蓮成寺 |
| 二本木   | 善門寺 |
| 荒子    | 等寛寺 |
| 浜尾    | 精界寺 |
| 千福    | 千福寺 |
| 鶴ヶ崎   | 西光寺 |
| 天王    | 光専寺 |
| 松江    | 専興寺 |

とにかく共同教化、共同学習の場として魅力ある別院にしていかなければならないと思う。そのためにも財源の確保が重要であります。司会 魅力に乏しいという指摘のある中で、魅力ある企画、ビジョンが示されれば、人のかかわりも生じ、財の確保にも繋がるということでしょうか。



形をとるべきだと思います。完璧なビジョンがないければ先に進めないと。先に出すのは概ね

住職だと思ふ。今維持して行くのにもならないと丁寧をお願いしていくことが先決だと思つています。

浅野 輪番が少なくとも毎年一回は各組を巡回し、話し合いの場を持つことが重要だと思います。そして、住職さんや総代さんにも別院にお集まりいただき、十分な意思疎通を図ることが大切だと思つています。

高須 寺を経由していく内容の多くが寺に止まって、門徒のところまで届かない現状があります。あるいは、寺に届いても少しでも寺に不都合だと思えば、檀家のところへ情報すら流されない。お金を求められれば、寺の会計で処理してそれで終わりという場合があったと記憶しています。

ストップすることは多くありました。今でも頻繁に起こっています。どんなに魅力的な企画が示されても、情報伝達がうまくいかなければ動きは生まれてきません。高須 だから直接門徒や住職が関係する具体的な事業が大事だと思います。全体のことに関わりがなくて、全体のことに関わりや関心が生まれてくるのです。浅野 理想的には別院と別院を取り巻く環境がドラマチックに変わることが望ましいが、今までの歴史もあり、別院には伝統もありますから、一つ一つ変わっていくしかないと思います。少しずつ風穴を開け、糸をつなげて行くしかないと思つています。



再建へと繋がった。更に、結果的に

出ず構造となつていようで、別院の側から燃えるような熱いものが出てきてほしいですね。

高須 燃えるようなものも再建のようハード面はまだしも、ソフト面となると継続性も求められますから、なかなか難しいですね。

藤谷 とにかくセンター構想にどれだけ結集できるかということだと思います。その具体化には、何

と言つても組織作り、システムの問題が重要でしょう。熱い思いを少しでも拾い上げ、生かしていくシステムがなければ、活性化してこないと思つています。

高須 別院にかかわっていることに意義を感じたり、別院を大切に思う住職さんがたくさんいてほしい。それで別院は成り立つてきたんだと思つています。

司会 今は別院の方にベクトルが向いていませんか。

高須 世間の価値観や物流に左右され、個人の都合や利用価値のほらが優先される風潮が、そのまま別院との関わりに投影しているのではないのでしょうか。

藤谷 宗教の価値というか、大切な意味が見えなくなつて、お金に直結する方向ばかりが選択される。

高須 現世利益にはたくさんのお金と人が集まる、結局経済の論理です。

浅野 お寺ですら四苦八苦しているのに、その上別院のためになぜ尽くさなければならぬのかという指摘を受けたが、だからこそ逆に別院にかかわる魅力や、価値を見出したいと思つました。魅力ある地域教化センターとし、寺族、門徒に親しみのある、気楽に利用できる赤羽別院にしていきたいと思つています。

司会 どうしても傍観者になつて、なかなか当事者になれません。崇敬区域の門徒と住職の力が結集さ

れたらすごい力になると思うのですが。

藤谷 センター構想は、誰かがやるのでなく、みんなが関わりながら作り上げていくものだと思う。期待に応えられる別院、頼られたことに対応できる別院を目指すべきだと思います。

浅野 崇敬区域が一つになっていくためには御遠慮をお勧めすることも目標の一つと考えられます。法要を核に、人々の力が結集されていくことは、今の赤羽別院だからこそ望ましいのかもしれない。司会 長時間ありがとうございます。

【人物紹介】

高須行雄 前赤羽別院責任役員、一色町赤羽、養林寺門徒

浅野 怜 赤羽別院責任役員、碧南市松江町、専興寺住職

藤谷信雄 赤羽別院再生委員長、赤羽別院常議員、西尾市小焼野町、了願寺住職

小谷晋示(司会) 一色町大塚、明栄寺住職

編集後記

「赤羽別院再生に向けて」の特別座談を、二ページにわたって掲載いたしました▼七ヶ組そろつて、ついに十ページ仕立てになりました。今後ますます情報伝達の機会になればと願つています。(小谷)